

研究成果保護者に披露

県家庭ク連大会 最優秀の花北青雲高生

花巻



ミニ学習発表会で最優秀賞を喜び合う生徒

第62回県高校家庭クラブ連盟研究発表大会で最優秀賞を獲得した県立花北青雲高校(遠藤敏夫校長、生徒469人)総合生活科の生徒10人は7日、花巻市石鳥谷町の同校で開かれたミニ学習発表会で、保護者に二つの発表内容を披露した。拍手で研究を称賛された生徒たちは全員で記念撮影し、改めて最優秀賞の喜びをかみしめた。

同大会は10月26日、奥州市江刺区で開催。各校で展開する「学校家庭クラブ活動」とそれぞれの生徒たちが推進する「ホームプロジェクト(H.P.)」の2部門が行われ、2年連続で、同校が両部門の最優秀賞に輝いた。このうち学校活動の部では、子供たちの遊びに食育を絡めた地域実践の成果を報告。齊藤麗奈さん(2年)を代表発表者に、古着を活用した手づくりエプロンシアター、親子で調理できるおやつメニューなどをテーマに話した。またH.P.の部では、発

表の佐藤優菜さん(同)が、祖母の持病対策に有益な体操導入や食生活改善、喫煙習慣をなくすた

めの工夫といった視点での取り組み結果を伝えた。大会経験はあっても保護者へ研究成果を示すことは少ないといい、ともに若干の気恥ずかしさにもじませる発表。佐藤さんは「会場の顔が見えるからか、いつもより緊張した。東北大会では内容をさらに充実させ、発表の仕方も工夫したい」と話し、齊藤さんは「実際に

に父母に聞いてもらうのは、自分たちが身に付けてきたことを伝える良い機会。実践活動を増やして全国大会に出られるよう頑張りたい」と意欲的だった。西部門の東北大会は12月14日、宮城県栗原市で実施。ここで最優秀賞を獲得すれば、2013年夏の全国大会出場権を手にする。

平成24年11月8日岩手日日新聞

※この記事・写真は岩手日日新聞社の許諾を得て転載しています。